

第 16 回 21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）の概況

目 次

調査の概要.....	2
結果の概要.....	4
1．調査対象者（子供）及び同居者等の状況.....	4
（1）調査対象者（子供）の状況.....	4
（2）同居者等の状況.....	4
（3）母の就業状況の変化.....	4
2．学校生活.....	6
（1）学校選択の理由と満足度.....	6
（2）学校生活の満足度の変化.....	9
（3）学校外での勉強時間の変化.....	10
（4）悩みや不安の変化.....	11
3．進路と将来.....	12
（1）子供自身が考える将来（進路）の変化.....	12
（2）進学を希望する分野.....	13
（3）就きたい職業及び働きたい地域の決定状況の変化.....	14
（4）子供自身が考える将来（結婚）の変化.....	15
（5）子供自身が考える将来（最初の子供を持つ時期）の変化.....	16

調査の概要

第 16 回 21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）

1 調査の目的

この調査は、2001 年（平成 13 年）に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察することにより、教育に関する国の諸施策を検討・立案するための基礎資料を得るため、厚生労働省が 2001 年（平成 13 年）から実施していた「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）」を第 16 回（平成 29 年）から引継ぎ、同一客体を対象に学校教育から就業に至るまでの約 10 年間、毎年調査することにより、出生時から約 25 年間の縦断データを整備することを目的としている。

2 調査の対象

全国の 2001 年（平成 13 年）に出生した子のうち、1 月 10 日～17 日の間に出生した子及び 7 月 10 日～17 日の間に出生した子を調査対象とする。

第 16 回調査における対象者の年齢は 16 歳である。

3 調査の時期

1 月生まれは平成 29 年 1 月 18 日、7 月生まれは平成 29 年 7 月 18 日とした。

（参考：第 1 回調査から第 6 回調査の 1 月生まれは 8 月 1 日、7 月生まれは 2 月 1 日である。）

4 調査事項

子 供...現在の状況、家族の状況、将来（進路・結婚等）、悩みや不安 等
保護者...父母の就業状況 等

5 調査の方法

調査票の配布及び回収は郵送により行った。

なお、結果の集計は文部科学省生涯学習政策局調査統計企画室において行った。

6 調査票の回収状況等

調査票の配布数及び回収数は次のとおりである。

	1月生まれ			7月生まれ			合計		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
第1回	26,620	23,423	88.0%	26,955	23,592	87.5%	53,575	47,015	87.8%
第2回	23,391	21,923	93.7%	23,575	22,002	93.3%	46,966	43,925	93.5%
第3回	23,374	21,365	91.4%	23,523	21,447	91.2%	46,897	42,812	91.3%
第4回	22,439	20,699	92.2%	22,398	20,860	93.1%	44,837	41,559	92.7%
第5回	21,735	19,824	91.2%	21,824	19,993	91.6%	43,559	39,817	91.4%
第6回	21,020	19,154	91.1%	21,167	19,383	91.6%	42,187	38,537	91.3%
第7回	20,182	18,304	90.7%	20,416	18,481	90.5%	40,598	36,785	90.6%
第8回	19,530	17,978	92.1%	19,731	18,158	92.0%	39,261	36,136	92.0%
第9回	18,865	17,480	92.7%	19,067	17,784	93.3%	37,932	35,264	93.0%
第10回	18,359	17,256	94.0%	18,630	16,868	90.5%	36,989	34,124	92.3%
第11回	17,948	16,426	91.5%	18,111	16,487	91.0%	36,059	32,913	91.3%
第12回	17,529	16,067	91.7%	17,509	15,998	91.4%	35,038	32,065	91.5%
第13回	16,960	15,204	89.6%	16,944	15,127	89.3%	33,904	30,331	89.5%
第14回	16,451	14,780	89.8%	16,392	14,726	89.8%	32,843	29,506	89.8%
第15回	15,738	14,462	91.9%	15,670	14,348	91.6%	31,408	28,810	91.7%
第16回	15,245	13,584	89.1%	15,052	13,316	88.4%	30,297	26,900	88.7%

7 利用上の注意

(1) この概況に掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。

(2) 調査回における対象児の年齢は以下のとおりである。

調査回	対象児の年齢	調査回	対象児の年齢
第1回調査	月齢6か月	第9回調査	9歳(小学3年生)
第2回調査	1歳6か月	第10回調査	10歳(小学4年生)
第3回調査	2歳6か月	第11回調査	11歳(小学5年生)
第4回調査	3歳6か月	第12回調査	12歳(小学6年生)
第5回調査	4歳6か月	第13回調査	13歳(中学1年生)
第6回調査	5歳6か月	第14回調査	14歳(中学2年生)
第7回調査	7歳(小学1年生)	第15回調査	15歳(中学3年生)
第8回調査	8歳(小学2年生)	第16回調査	16歳(高校1年生等)

注：第7回調査(7歳)は、第6回調査(5歳6か月)から1年6か月後に実施した。

(3) 表章記号の規約

計数のない場合	-
比率が微小(0.05未満)の場合	0.0

結果の概要

1. 調査対象者（子供）及び同居者等の状況

（1）調査対象者（子供）の状況

中学卒業後、99.0%の者が高等学校等へ進学している。進学先別の割合は、「高等学校」が94.8%、「高等専門学校」が1.2%、「特別支援学校」が1.4%、「専修学校」が0.6%である。

（表1）

表1 調査対象者（子供）の状況

割合 (人数)	進学者	進学者					就職者	その他	不詳
		高等学校	高等専門学校	特別支援学校	専修学校	その他+不詳			
100.0 (26,900)	99.0 (26,625)	94.8 (25,505)	1.2 (319)	1.4 (368)	0.6 (172)	1.0 (261)	0.1 (19)	0.5 (130)	0.5 (126)

注：(1) 就職者は、通学せず「就業（常勤の仕事）をしている」と回答した数

(2) その他は、「就業していない」「公共職業能力開発施設等で訓練している」「その他」の合計

（2）同居者等の状況

「父母と同居」している者の割合が84.1%、「父又は母と同居」している者の割合が12.6%、その他「寄宿舍（学生寮・社員寮）に入寮中」等の者の割合が3.4%である。

なお、「父母と同居」の者には、父又は母が単身赴任中の者（「父が単身赴任中」が7.0%、「母が単身赴任中」が0.3%）が含まれる。

「祖父母と同居」している者の割合は20.2%である。（表2）

表2 同居者等の状況

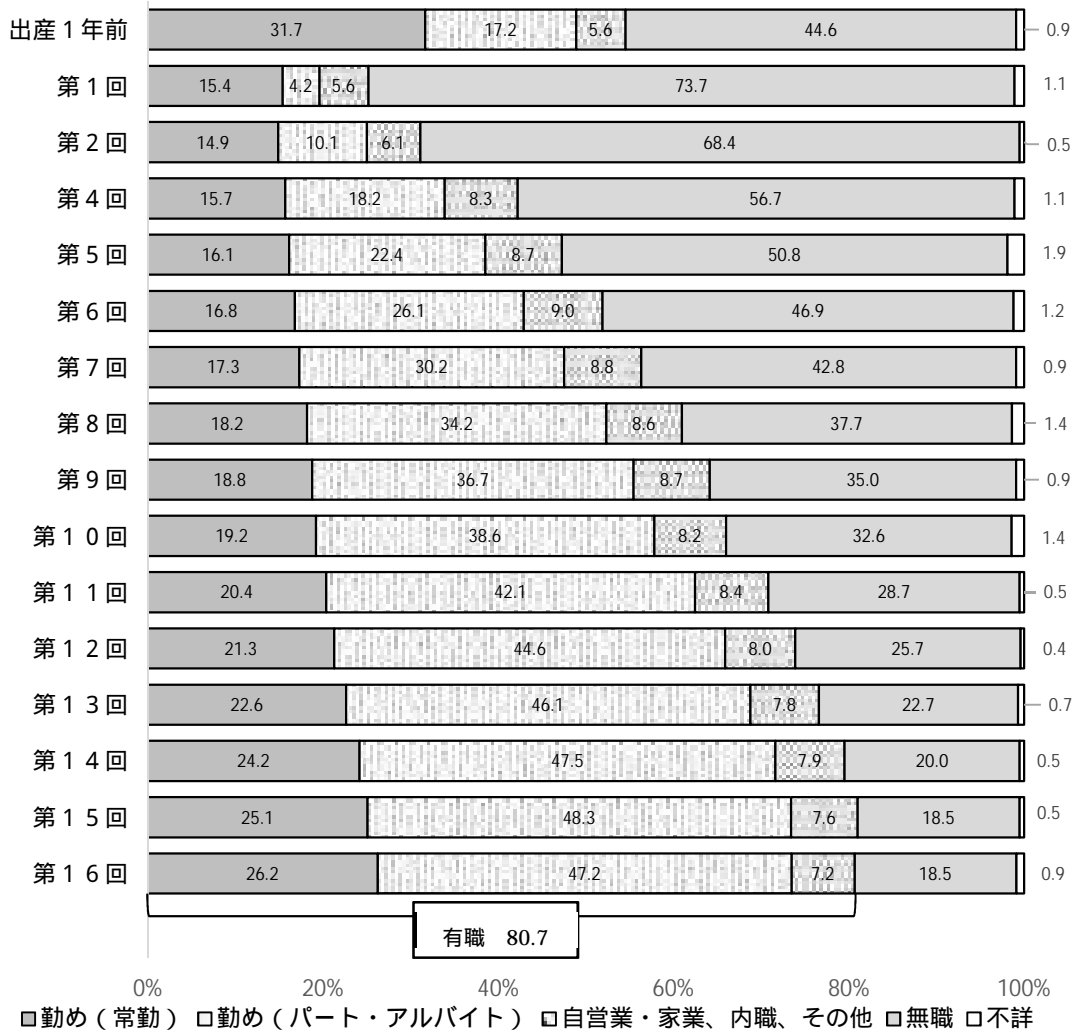
割合 (人数)	父母と同居 (父又は母が単身赴任中を含む)				父又は母と同居			その他
	父母又は父と きょうだいのみ	父母と 祖父母	父母と その他	母又は父のみ又 は母又は父と きょうだい	母又は父と 祖父母等			
100.0 (26,900)	84.1 (22,612)	67.4 (18,131)	16.2 (4,353)	0.5 (128)	12.6 (3,376)	8.5 (2,295)	4.0 (1,081)	3.4 (912)

（3）母の就業状況の変化

母の有職の割合は、出産1年前の54.5%が、第1回調査（出産半年後）で25.2%に減少した以降は毎年増加し第15回調査（中学3年生）では81.0%に達したものの、第16回調査（高校1年生等）では横ばいの80.7%となっている。

母の就業状況をみると、第15回調査と比較して第16回調査では「勤め（パート・アルバイト）」及び「自営業・家業・内職、その他」の割合が減少している。一方、「勤め（常勤）」の割合が増加し、第1回調査以降最も高い26.2%となっている。（図1）

図 1 母の就業状況の変化



注：第3回調査は母の就業状況を調査していない。

2. 学校生活

(1) 学校選択の理由と満足度

現在通っている学校を選択した理由(複数回答)は、割合の高い順に、男子が「自宅から近いから・通いやすいから」37.7%、「合格できそうだったから」32.9%、「学校の雰囲気がよかったから」26.9%、女子が「学校の雰囲気がよかったから」40.5%、「自宅から近いから・通いやすいから」38.8%、「合格できそうだったから」34.0%となっている。(図2)

そのうち、特に強い理由として1つだけ選択した場合は、割合の高い順に、男子が「自宅から近いから・通いやすいから」16.5%、「合格できそうだったから」12.6%、「入部したい部活動があったから」10.8%、女子が「学校の雰囲気がよかったから」15.9%、「自宅から近いから・通いやすいから」14.6%、「合格できそうだったから」11.9%となっている。(図3)

進路選択の満足度については、男子の85.5%、女子の86.8%が「満足」又は「どちらかといえば満足」と答えている。(図4)

学校を選択した特に強い理由別に進路選択の満足度を見たところ、「満足」の割合が高い理由は、男子は割合の高い順に「将来就きたい仕事と関連しているから」53.4%、「学校の雰囲気がよかったから」52.5%、「特色有る取組を行っているなど授業内容に興味があったから」49.5%、女子は割合の高い順に「学校の雰囲気がよかったから」56.6%、「将来就きた

い仕事と関連しているから」55.5%「特色有る取組を行っているなど授業内容に興味があったから」53.7%、となっている。(図5)

図 2 学校を選択した理由（複数回答）

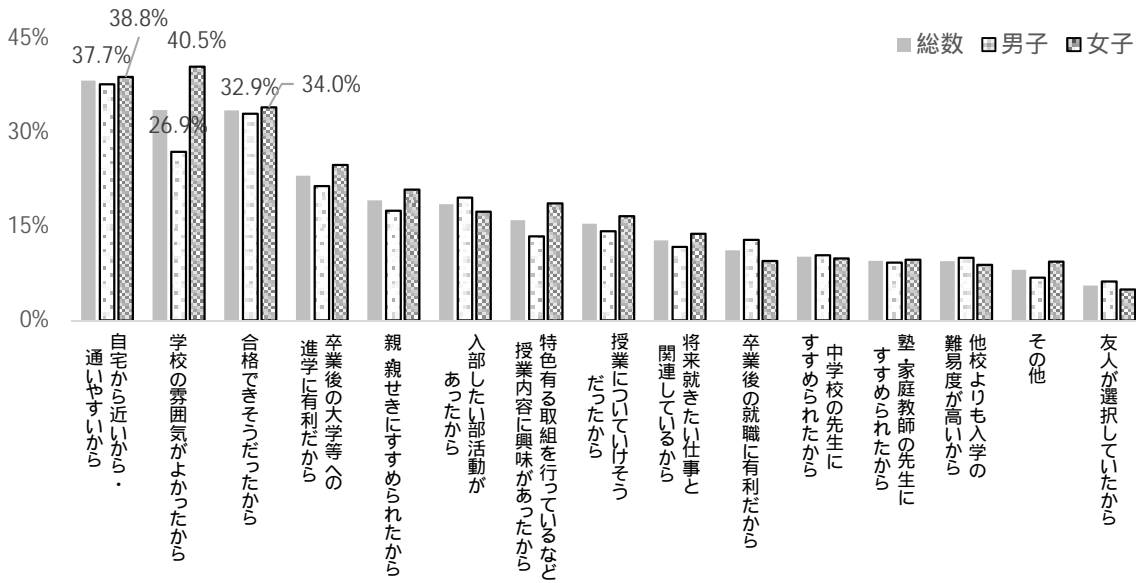


図 3 学校を選択した特に強い理由

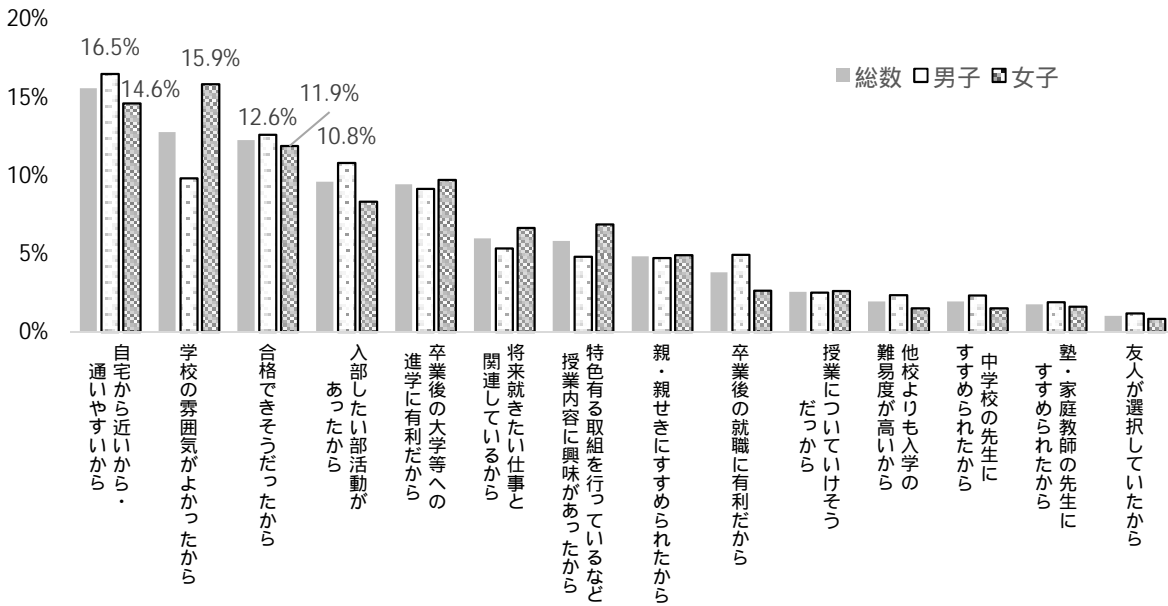


図 4 進路選択の満足度

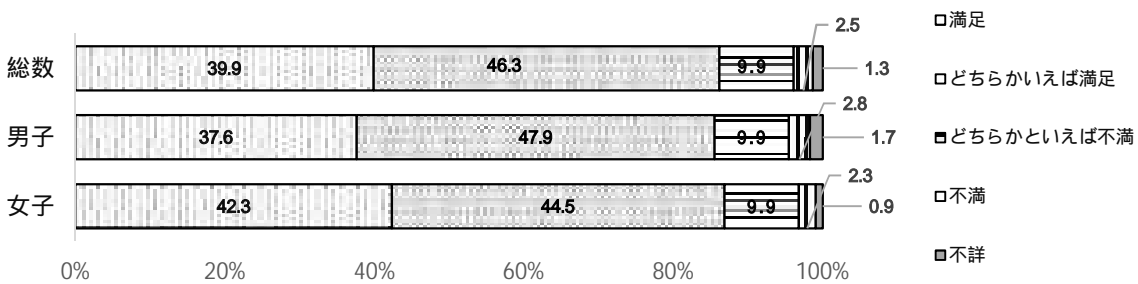
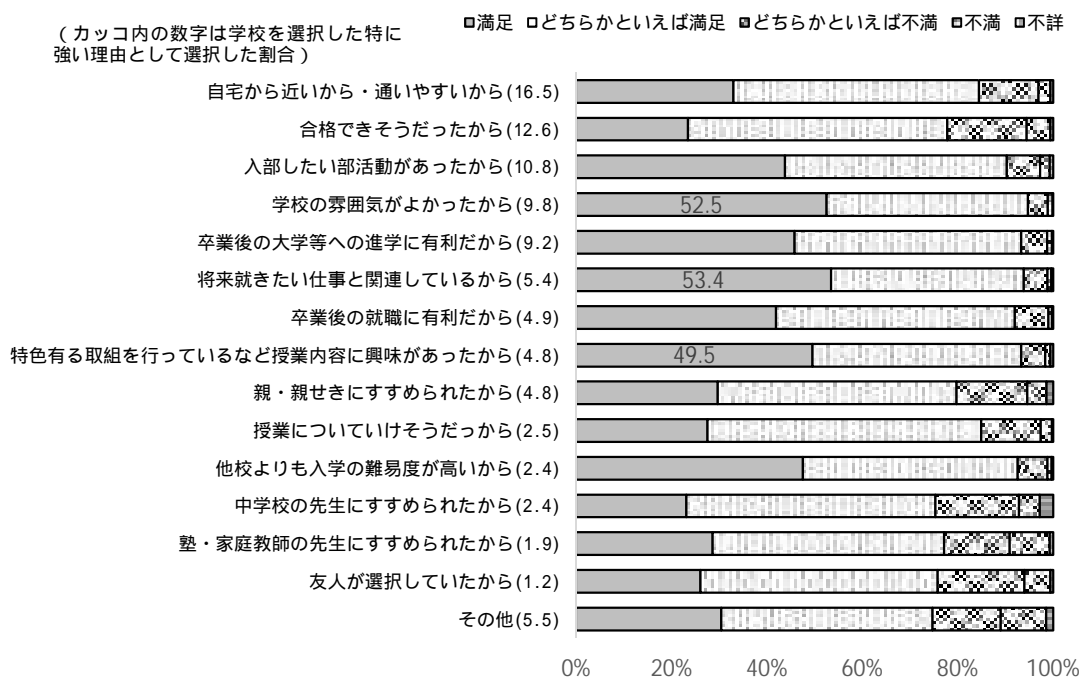
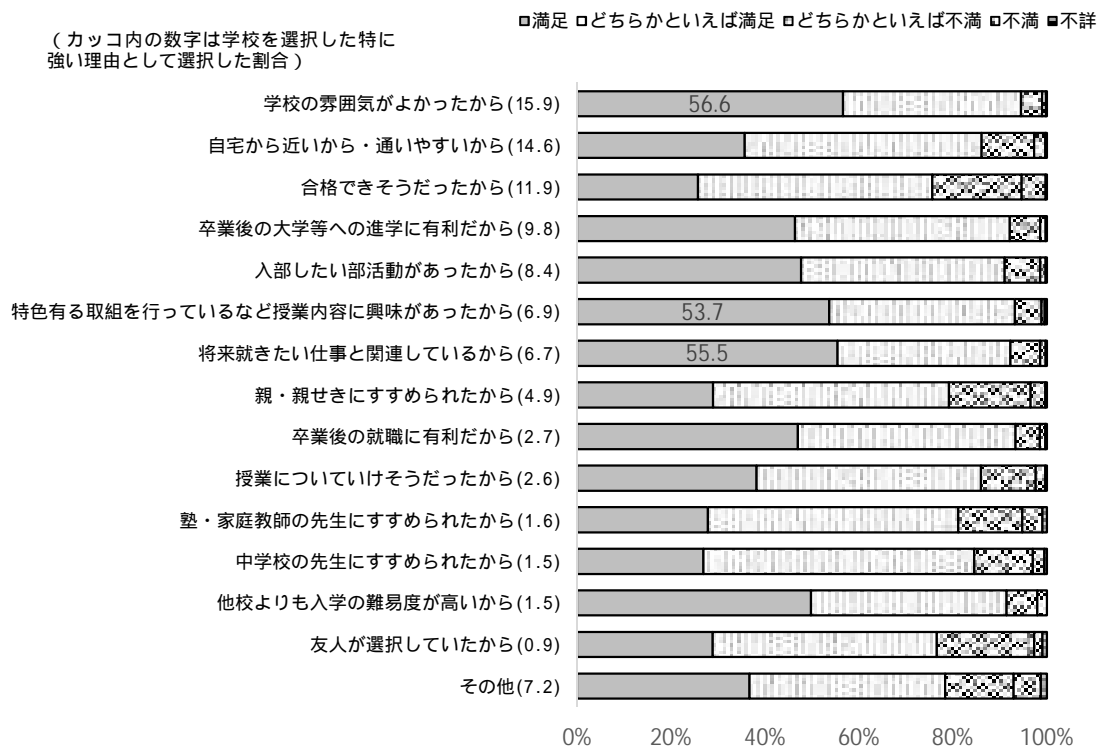


図 5 学校を選択した特に強い理由別 進路選択の満足度

男子



女子



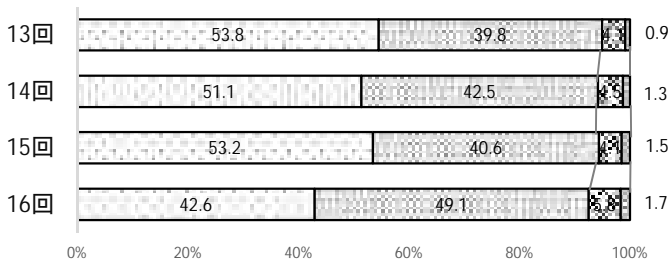
(2) 学校生活の満足度の変化

第16回調査では、「クラスの友人関係はうまくいっている」「教師との関係はうまくいっている」「ためになると思える授業がたくさんある」などすべての項目について「とてもそう思う」及び「まあそう思う」の割合の合計が65%以上となっている。

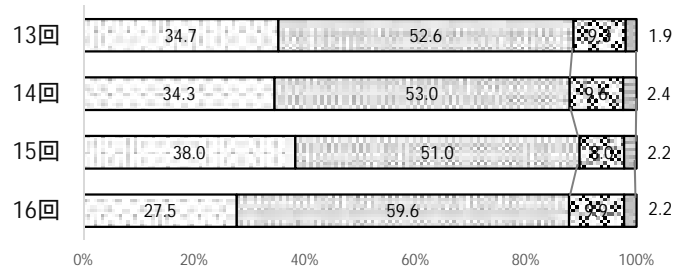
第13回調査(中学1年生)以降の変化をみると、「クラスの友人関係はうまくいっている」「教師との関係はうまくいっている」「授業の内容をよく理解できている」については、第15回調査(中学3年生)において「とてもそう思う」及び「まあそう思う」の割合の合計が増加したが、第16回調査(高校1年生等)においてその割合が減少している。一方、「ためになると思える授業がたくさんある」「楽しいと思える授業がたくさんある」「学校の勉強は将来役に立つと思う」については、「とてもそう思う」及び「まあそう思う」の割合の合計が毎年減少傾向にある。(図6)

図6 学校生活の満足度の変化

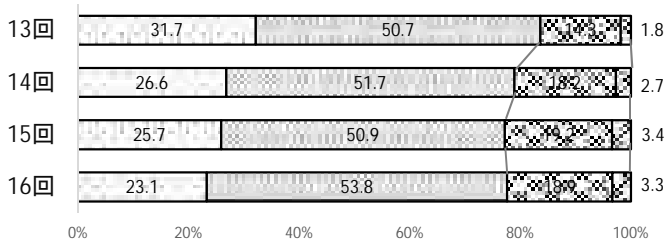
クラスの友人関係はうまくいっている



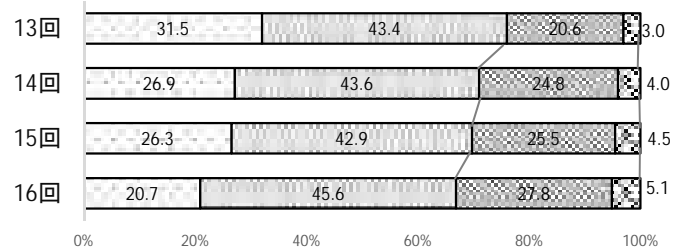
教師との関係はうまくいっている



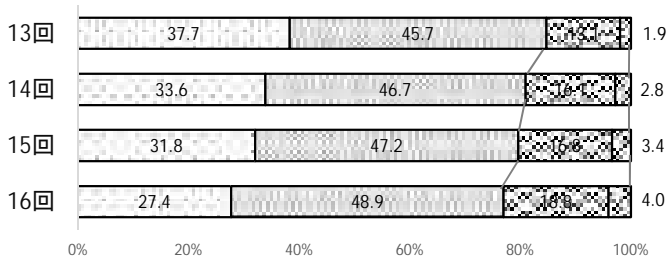
ためになると思える授業がたくさんある



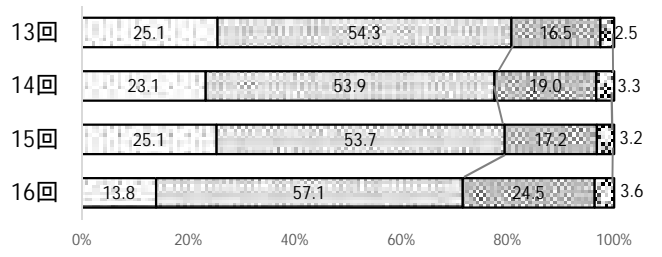
楽しいと思える授業がたくさんある



学校の勉強は将来役に立つと思う



授業の内容をよく理解できている



□とてもそう思う
 □まあそう思う
 ■あまりそう思わない
 ■まったくそう思わない

(3) 学校外での勉強時間の変化

第16回調査では、授業の予習・復習や受験勉強のための家や塾などでの勉強時間は、割合の高い順に平日が「1時間未満」29.3%、「1時間～2時間未満」27.7%、「しない」25.4%、休日が「しない」26.3%、「1時間未満」23.1%、「1時間～2時間未満」21.4%となっている。

第13回調査（中学1年生）以降の変化をみると、平日、休日ともに第15回調査（中学3年生）では「3時間～4時間未満」以上の割合が大幅に増加したが、第16回調査ではこの割合が第13、14回調査並みに減少するとともに、「しない」者の割合が大幅に増加している。（図7）

中学3年生のときの成績別の学校外での勉強時間（平日）をみると、成績が上の方になるに従い「しない」者の割合が減少している。（図8）

図7 学校外での勉強時間の変化

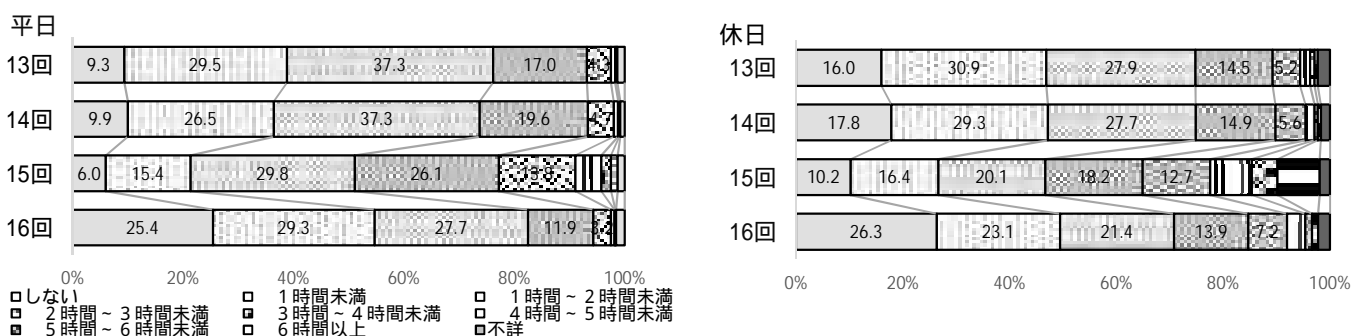
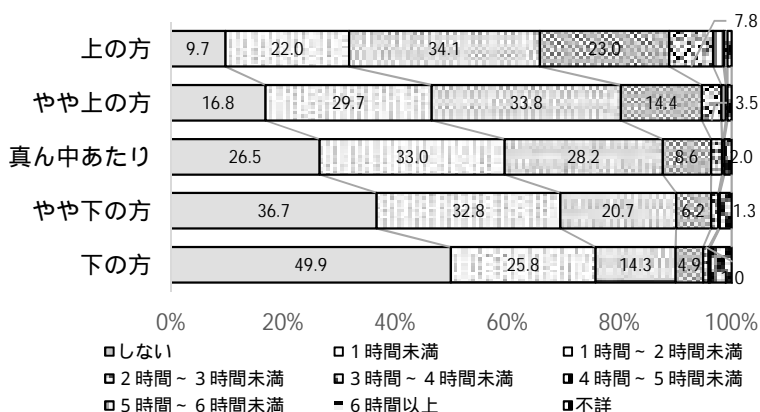


図8 中学3年生のときの成績別 学校外での勉強時間（平日）



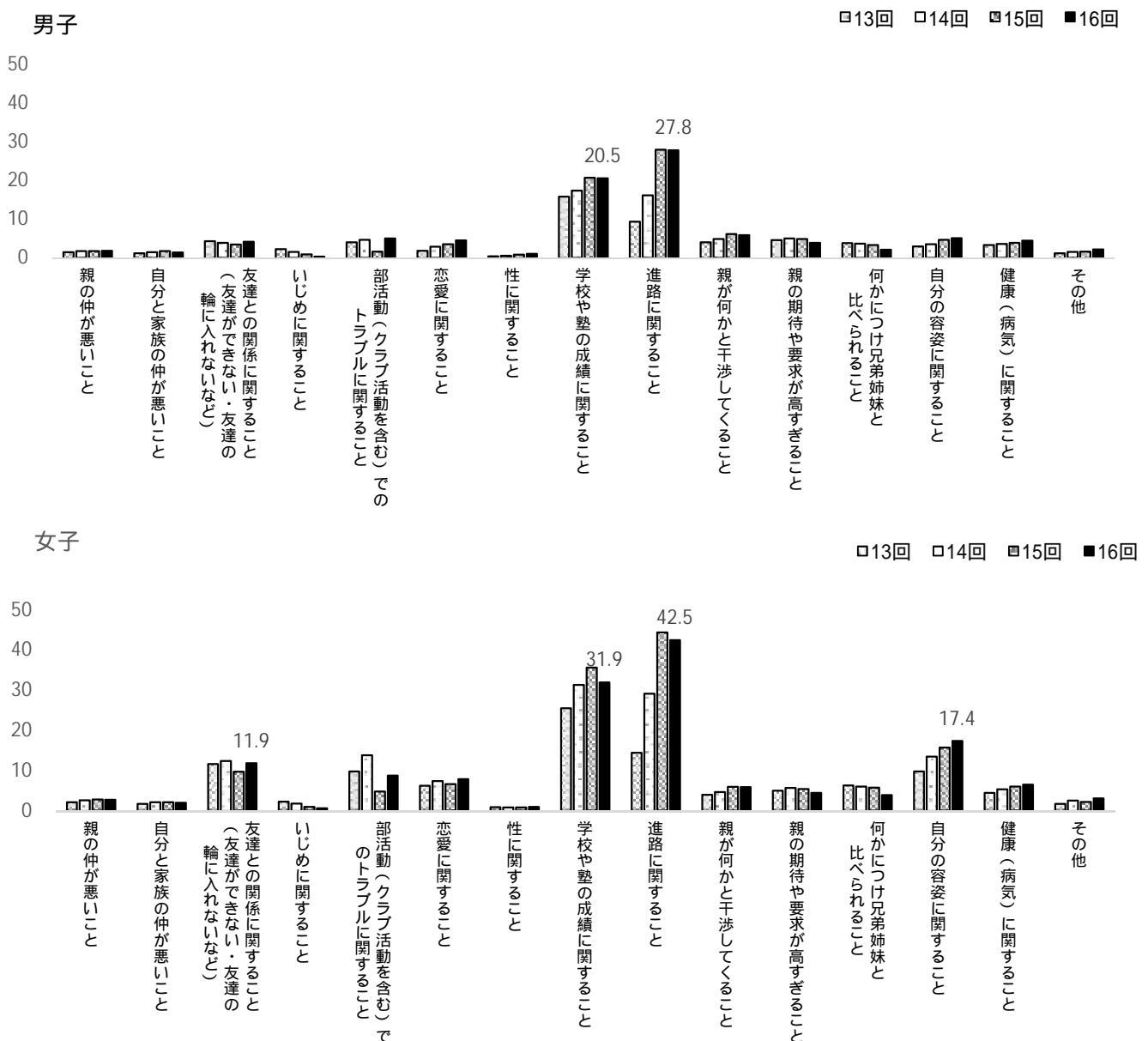
(4) 悩みや不安の変化

第16回調査では、悩みや不安の種類(複数回答)は、割合の高い順に男女とも「進路に関する事」男子27.8%・女子42.5%、「学校や塾の成績に関する事」男子20.5%・女子31.9%となっている。

また、男子と比較して女子は、「自分の容姿に関する事」17.4%、「友達との関係に関する事(友達ができない・友達の輪に入れないなど)」11.9%の割合が高い。

第13回調査(中学1年生)以降の変化をみると、「進路に関する事」「学校や塾の成績に関する事」が第13回調査(中学1年生)から第15回調査(中学3年生)にかけて増加し、第16回調査(高校1年生等)も割合が高止まりしている。(図9)

図9 悩みや不安(複数回答)の変化



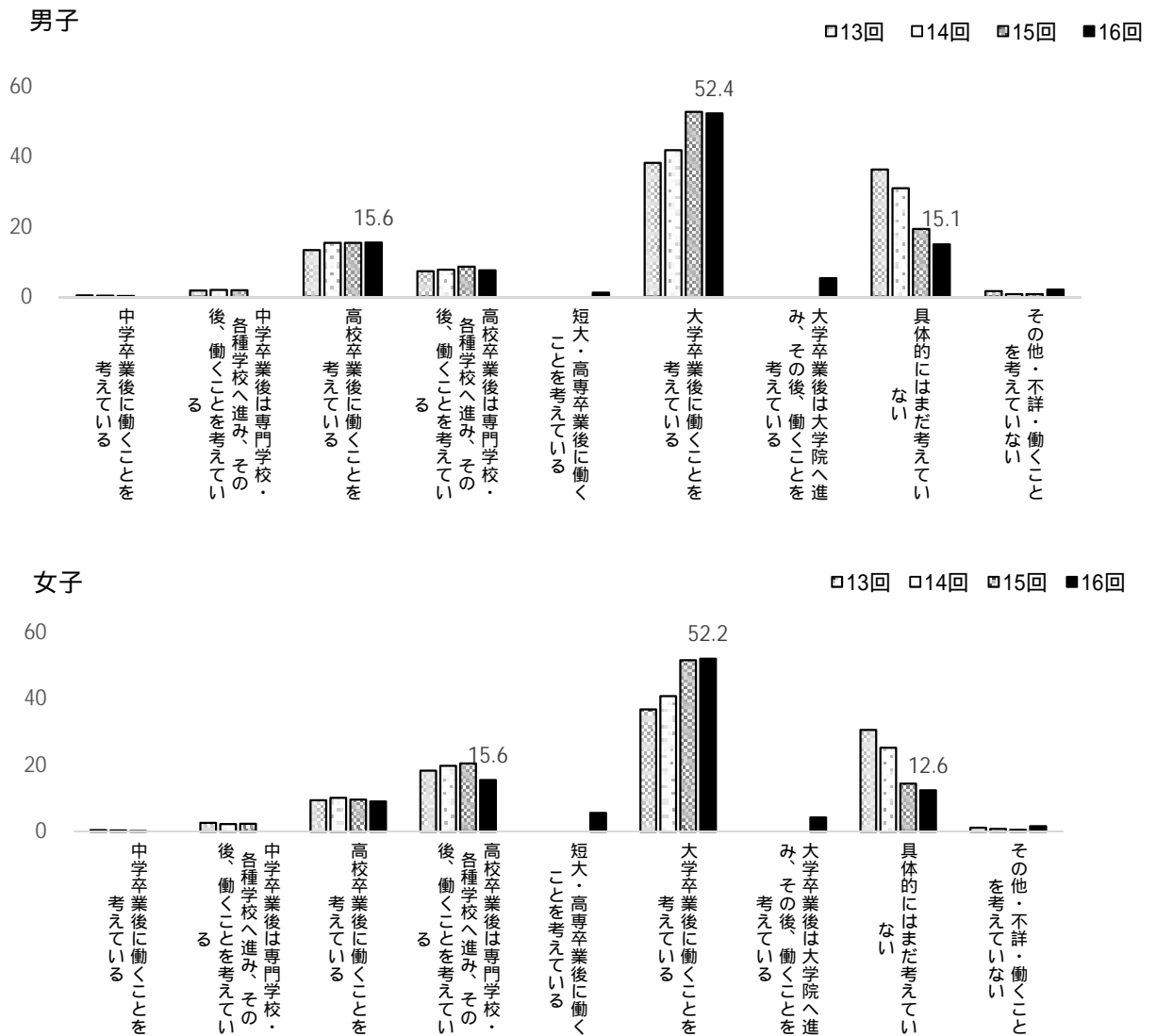
3. 進路と将来

(1) 子供自身が考える将来(進路)の変化

第16回調査では、将来の進路は、割合の高い順に男子は「大学卒業後に働くことを考えている」52.4%、「高校卒業後に働くことを考えている」15.6%、「具体的にはまだ考えていない」15.1%、女子は「大学卒業後に働くことを考えている」52.2%、「高校卒業後は専門学校・各種学校へ進み、その後、働くことを考えている」15.6%、「具体的にはまだ考えていない」12.6%となっている。

第13回調査(中学1年生)以降の変化をみると、男女とも「具体的にはまだ考えていない」の割合が減少し、「大学卒業後に働くことを考えている」の割合が増加している。(図10)

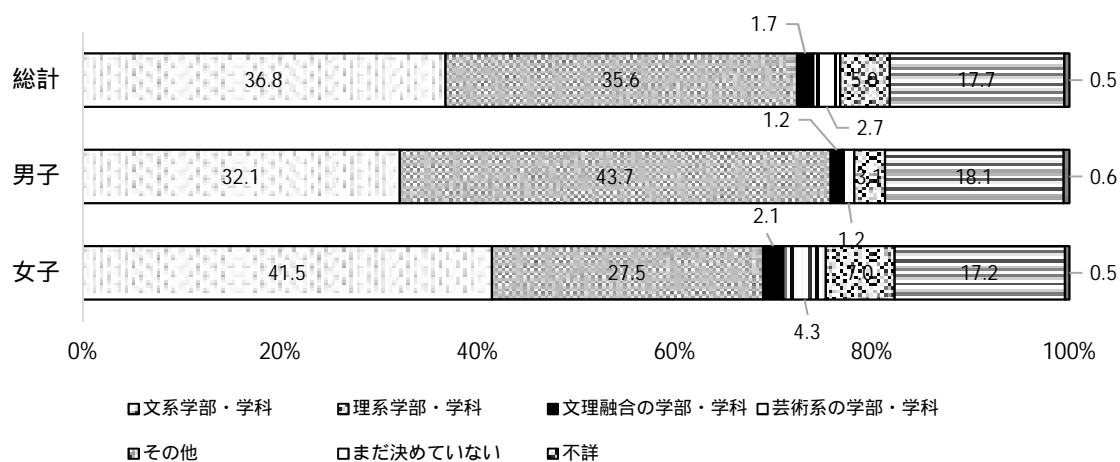
図10 子供自身が考える将来(進路)の変化



(2) 進学を希望する分野

短期大学、高等専門学校、大学への進学を希望している者の希望する分野は、割合の高い順に男子は「理系学部・学科」43.7%、「文系学部・学科」32.1%、「まだ決めていない」18.1%、女子は「文系学部・学科」41.5%、「理系学部・学科」27.5%、「まだ決めていない」17.2%となっている。(図11)

図 11 進学を希望する分野



(3) 就きたい職業及び働きたい地域の決定状況の変化

第16回調査では、就きたい職業の決定状況は、「決まっている」者の割合が男子35.3%・女子48.5%となっている。

第13回調査(中学1年生)以降の変化を男女で比較してみると、いずれも女子の方が「決まっている」者の割合が高く、男女ともに第15回調査(中学3年生)に比して第16回調査(高校1年生等)は割合がわずかに減少している。(図12)

働きたい地域の決定状況は、男女ともに「まだ考えていない」者の割合が最も高く(男子53.3%・女子49.3%)、次いで「働きたい地域を決めている」男子26.0%・女子34.0%、「働けるならどの地域でもよい」男子19.4%・女子15.9%となっている。(図13)

第16回調査では、「働きたい地域を決めている」者の働きたい地域は、「現在住んでいる市区町村、または現在住んでいる市区町村から通える地域」が男子17.2%・女子21.1%、「それ以外の地域」が男子8.7%・女子12.8%となっている。第15回調査(中学3年生)に比して「働きたい地域を決めている」が男子はわずかに減少、女子はわずかに増加した。(図13)

図12 就きたい職業の決定状況の変化

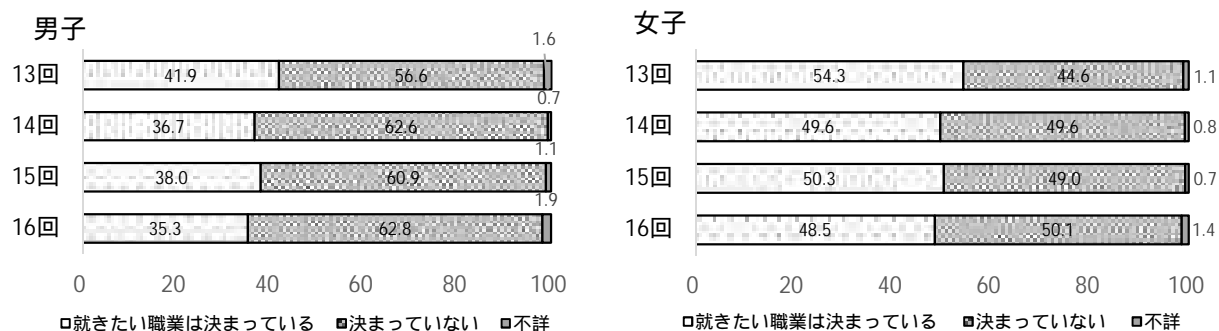
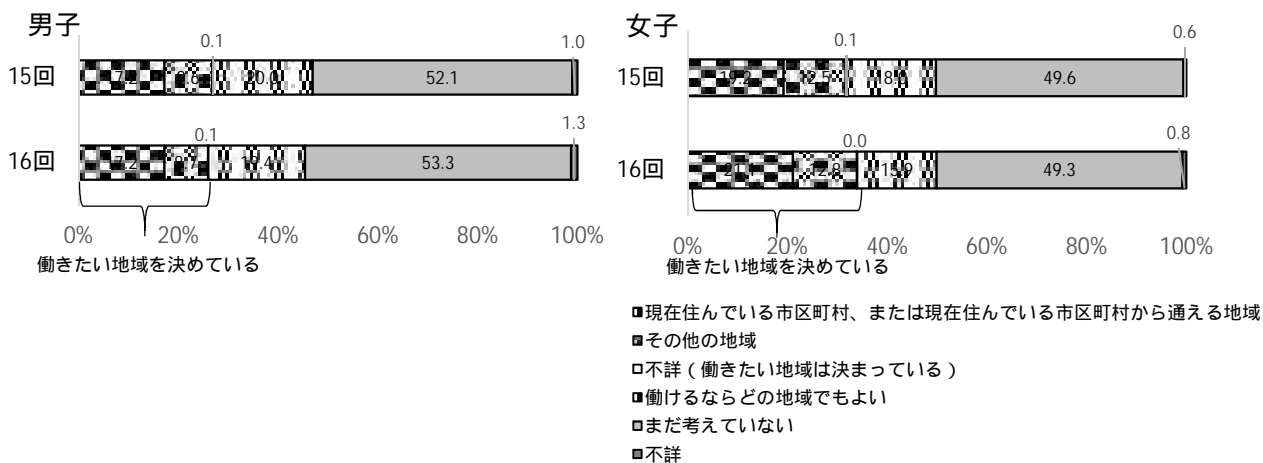


図13 働きたい地域の決定状況の変化

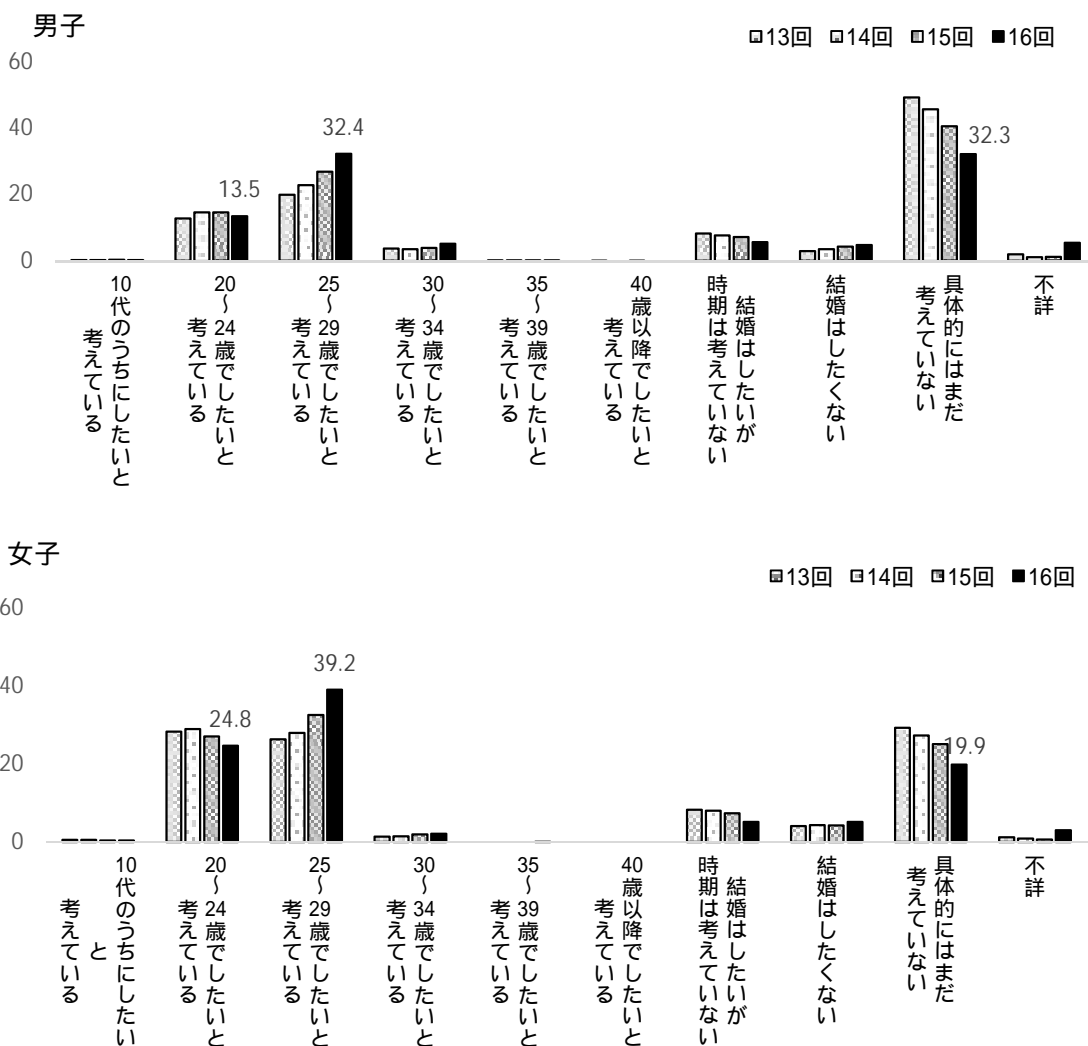


(4) 子供自身が考える将来(結婚)の変化

第16回調査では、将来の結婚についてみると、割合の高い順に男子は「25～29歳でしたいと考えている」32.4%、「具体的にはまだ考えていない」32.3%、「20～24歳でしたいと考えている」男子13.5%、女子は「25～29歳でしたいと考えている」39.2%、「20～24歳でしたいと考えている」24.8%、「具体的にはまだ考えていない」19.9%、となっている。

第13回調査(中学1年生)以降の変化をみると、男女とも「20～24歳でしたいと考えている」「結婚はしたいが時期は考えていない」「具体的にはまだ考えていない」の割合が減少し、「25～29歳でしたいと考えている」「30～34歳でしたいと考えている」「結婚はしたくない」の割合が増加している。特に「具体的にはまだ考えていない」の割合の減少と「25～29歳でしたいと考えている」の割合の増加が顕著となっている。(図14)

図14 子供自身が考える将来(結婚)の変化



(5) 子供自身が考える将来(最初の子供を持つ時期)の変化

第16回調査では、将来の最初の子供を持つ時期についてみると、割合の高い順に男子は「具体的にはまだ考えていない」36.7%、「25～29歳で持ちたいと考えている」29.1%、「30～34歳で持ちたいと考えている」13.1%、女子は「25～29歳で持ちたいと考えている」43.0%、「具体的にはまだ考えていない」23.1%、「20～24歳で持ちたいと考えている」10.4%となっている。

第13回調査(中学1年生)以降の変化をみると、男女とも「20～24歳で持ちたいと考えている」「子供は持ちたいが時期は考えていない」の割合が減少し、「25～29歳で持ちたいと考えている」「30～34歳で持ちたいと考えている」「子供は持ちたくない」の割合が毎年増加している。特に「具体的にはまだ考えていない」の割合の減少と「25～29歳で持ちたいと考えている」の割合の増加が顕著となっている。(図15)

図15 子供自身が考える将来(最初の子供を持つ時期)の変化

